香椎Ａ遺跡５

― 香椎Ａ遺跡第８次調査報告 ―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1408集

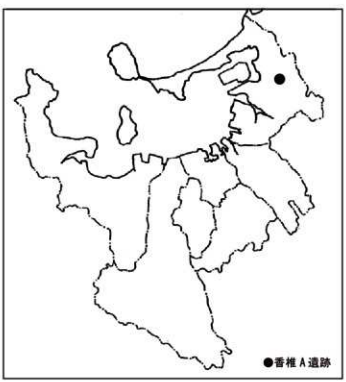
２０２１

福 岡 市 教 育 委 員 会

香椎A遺跡5

－ 香椎A遺跡第8次調査報告 －

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1408集



遺跡略号　KSA－8
調査番号　1832

2021

福岡市教育委員会

序

北部九州は玄界灘を介して大陸・朝鮮半島と一衣帯水の関係にあり、古代より双方の交流が絶え間なくおこなわれてきました。なかでも福岡市には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が数多く存在します。近年の著しい都市化により失われるこれらの文化財を後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は宅地造成に伴う香椎A遺跡第8次発掘調査について報告するものです。この調査では弥生時代～中世の遺構・遺物が多数出土しました。

これらは地域の歴史の解明のために重要な資料となるものです。今後本書が文化財保護についての理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、株式会社 グランデポ様をはじめとする関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

令和3年3月25日

福岡市教育委員会
教育長　星子　明夫

例　言

1．本書は、福岡市教育委員会が宅地造成に伴い、福岡市東区香椎３丁目 1045 － 1 外において発掘調査を実施した香椎Ａ遺跡第８次調査の報告書である。
2．発掘調査および整理・報告書作成は、民間受託事業として実施した。
3．報告する調査の基本情報は下表のとおりである。
4．本書に掲載した遺構実測図の作成は清金良太が、遺物実測図の作成は、清金・平川敬治が行った。
5．本書に掲載した挿図の製図、遺構および遺物写真の撮影は、清金が行った。
6．本書に掲載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅱ座標系）によるものである。
7．遺構の呼称は、掘立柱建物を SB、溝を SD、土坑を SK、ピットを SP、包含層を SX と略号化した。
8．遺物番号は通し番号とし、挿図と図版の遺物番号は一致する。
9．本書に関わる記録・遺物等の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。

遺　跡　名	香椎Ａ遺跡	調　査　次　数	第８次	遺　跡　略　号	KSA-8
調査番号	1832	分布地図図幅名	浜男	遺跡登録番号	0069
申請地面積	5,420.0㎡	調査対象面積	380㎡	調　査　面　積	291.0㎡
調　査　地	福岡市東区香椎３丁目 1045 － 1 外			事前審査番号	29 － 2 － 57
調査期間	2018 年 12 月 17 日～ 2019 年３月８日				

本文目次

Ⅰ．はじめに …… 1
　1．調査に至る経緯 …… 1
　2．調査の組織 …… 1
Ⅱ．遺跡の立地と環境 …… 2
Ⅲ．調査の記録 …… 7
　1．概要 …… 7
　2．遺構と遺物 …… 7
　3．結語 …… 14

挿図目次

第 1 図　香椎Ａ遺跡位置図（1/25,000）…… 3
第 2 図　調査区位置図（1/5,000）…… 4
第 3 図　調査区位置図（1/2,000）…… 5
第 4 図　香椎Ａ遺跡周辺旧地形図（1/5,000）…… 6
第 5 図　調査区１面全体図（1/150）…… 8
第 6 図　SB036 実測図（1/60）…… 9
第 7 図　SD151 実測図（1/60）および出土遺物実測図（1/3）…… 10
第 8 図　SK055 実測図（1/60）および出土遺物実測図（1/3）…… 10
第 9 図　SK067・118・134・144・185 実測図（1/60）…… 11
第 10 図　ピット出土遺物実測図（1/3）…… 11
第 11 図　調査区２面全体図（1/150）…… 12
第 12 図　包含層出土遺物実測図（14 は 1/2、他は 1/3）…… 13

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、同市東区香椎三丁目 1045 － 1、1045 － 3、1045 － 4、1045 － 5、1045 － 6、1049 － 2、1034 － 2、1042、1044、1046、1048 における宅地分譲事業に伴う埋蔵文化財の有無についての照会を平成 29 年 4 月 17 日付で受理した。

これを受けて埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である香椎 A 遺跡に含まれていること、確認調査が実施され現地表面下約 30 ～ 100cm で遺構が確認されていることから、遺構の保全等に関して申請者と協議を行った。

その結果、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、宅地分譲事業で遺跡が破壊される部分について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

その後、平成 30 年 11 月 19 日付で株式会社 グランデポを委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、同年 12 月 17 日から発掘調査を、令和元年度に資料整理、令和 2 年度に報告書作成をおこなうこととなった。

２．調査の組織

調査委託：株式会社　グランデポ

調査主体：福岡市教育委員会

（発掘調査：平成 30 年度・資料整理：令和元年度・報告書作成：令和 2 年度）

調査総括：経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課　課長　大庭康時（30 年度）

菅波正人（元年・２年度）

同課調査第 2 係長　大塚　紀宜（30 年度）

同課調査第 1 係長　吉武　学（元年度）

同課調査第 2 係長　藏冨士　寛（２年度）

庶　　務：　文化財活用課管理調整係　松原加奈枝

事前審査：　埋蔵文化財課事前審査係長　本田浩二郎

同課事前審査係主任文化財主事　田上勇一郎

同課事前審査係文化財主事　中尾祐太（30 年度）

山本晃平（元年・２年度）

調査担当：　埋蔵文化財課文化財主事　清金良太

その他、発掘調査に至るまでの条件整備、調査中の調整等について株式会社 グランデポ様をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事に終了することができました。ここに深く感謝します。

Ⅱ．遺跡の立地と環境

玄界灘に面し、背後に背振・三郡山系をひかえる福岡市には、これらより派生する山塊、丘陵によって画される中小の平野が展開しており、東側から粕屋、福岡、早良、今宿平野と呼称される。香椎A遺跡が所在する香椎は、粕屋平野の北東側に位置している。博多湾を望む砂州である海の中道の基部に位置し、今は埋め立てにより見る影もないが北は香椎潟が目の前に広がり海の中道とその先に連なる志賀島を望む。東は三郡山塊に連なり、南は多々良川が流れる。多々良川は久原川、宇美川と合流し、名島海岸で博多湾に注いでいる。

また、香椎は国道３号線・バイパス、ＪＲ鹿児島本線が通るなど交通の要所として栄えており、千早と共に福岡市東部の副都心と呼ばれている。

香椎Ａ遺跡は城越山から博多湾に向かって派生する香椎丘陵および丘陵に挟まれた谷部に位置している。この丘陵上には神亀元年（724 年）に創建されたと伝えられる香椎宮が位置している。

旧石器時代では６・７次調査から三陵尖頭器、ナイフ形石器、彫器などが出土している。

粕屋平野内では縄文時代晩期末には江辻遺跡で農耕集落が営まれている。また、香椎Ａ遺跡の６次調査では谷部の流路下層から縄文時代晩期前半を主体とする土器が出土した。

弥生時代には蒲田部木原遺跡と蒲田水ヶ元遺跡で弥生時代中期から終末期の集落跡や甕棺墓が検出されている。青銅器鋳型も多く見つかり、多々良大牟田遺跡では有鉤銅釧と広型銅戈の鋳型、土井遺跡では中細銅戈と中広銅剣の鋳型が発見されている。そのほか、八田出土と伝わる中細銅戈の鋳型がある。また頴孝寺遺跡では甕棺から銅剣が出土している。

弥生時代終末から古墳時代初頭には、多々良川左岸の多々良込田遺跡で外来系土器を多数もつ集落が営まれる。また、砂丘上に位置する唐の原遺跡では漁撈関連遺物を出土する集落と炉跡が多数検出された。多々良戸込田遺跡では井堰が出土している。

古墳時代は多々良川河口近くの右岸丘陵上に名島古墳が築かれる。全長約 30 m の前方後円墳で三角縁九神三獣鏡と鉄剣が出土している。猪野川左岸の丘陵上にある天神森古墳からは三角縁三神三獣鏡と、小型の盤龍鏡が出土している。また、香住ケ丘古墳からは三角縁二神二獣鏡が出土しており、古墳時代前期に大きな勢力を持った集団がいたことが伺える。4 世紀末には舞松原古墳が造出付円墳として築かれ、主体部は木棺直葬である。中期の古墳は無く後期になると唐の原遺跡で円墳が築かれる。『日本書記』巻８ 仲哀天皇 9 年２月条には熊襲平定の際に行宮「橿日宮」が置かれ、仲哀天皇が新羅征討の神託にそむいたためその行宮で亡くなったことが記されている。また、『日本書記』巻九 摂政前期には神功皇后が新羅征討に先立ち、「橿日浦」の海水で髪をすすぎ、みずらに結ったことが記されている。

香椎宮が創建された古代では、多々良込田遺跡で越州窯系青磁や三彩水注、硯、墨書土器、石帯、鈴などが出土し、官衙を想定させる遺物が出土しており注目される。香椎Ａ遺跡の６、７次調査では溝から 9 世紀前半～中期の土師器が出土している。また砂丘上に立地する海の中道遺跡では製塩土器、土錘・釣り針などの漁撈具、越州窯系青磁、袴帯、皇朝十二銭のうち 4 種類が出土しており、大宰府の出先機関である「津の御厨」との関連が指摘されている。

中世においては、多々良遺跡で、輸入陶磁器や在地の土師器が出土し、方形区画溝を持つ集落が検出された。麦尾戸原遺跡では 12 世紀から 14 世紀の方形区画溝を持つ屋敷地や水田址が発掘された。香椎Ａ遺跡３次調査では 11 世紀から 13 世紀にかけての屋敷群が検出された。また、香椎Ｂ遺跡では 10 世紀から 15 世紀にかけての屋敷群が出土しており３次調査との関連性が指摘されている。

1．**香椎Ａ遺跡**　2．御飯ノ山城　3．香椎Ｂ遺跡　4．香椎宮遺跡　5．城ノ越城　6．土井遺跡
7．青葉遺跡　8．多々良大牟田遺跡　9．顕孝寺遺跡　10. 多々良遺跡　11. 多々良込田遺跡
12. 戸原鹿田遺跡　13. 戸原麦尾遺跡　14. 冑塚古墳　15. 耳塚古墳　16. 舞松原古墳

第１図　香椎Ａ遺跡位置図（１/25,000）

第２図　調査区位置図（１/5,000）

第３図　調査区位置図（１/2,000）

第４図　香椎Ａ遺跡周辺旧地形図（１/5,000）

香椎Ａ遺跡、香椎Ｂ遺跡刊行調査報告書

『香椎Ａ』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 317 集　1993

『蒲田・水ヶ元遺跡』「香椎Ａ遺跡第１次」同第 491 集　1996

『香椎Ａ遺跡２ －香椎Ａ遺跡群第３次発掘調査概要－』同第 622 集　2000

『香椎Ａ遺跡３ －一般国道３号線博多バイパス建設に伴う調査２－』同第 1072 集　2010

『香椎Ａ遺跡４ －一般国道３号線博多バイパス建設に伴う調査４－』同第 1145 集　2012

『香椎Ｂ遺跡－香椎住宅造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』同第 621 集　2000

『香椎Ｂ遺跡２ －香椎Ｂ遺跡第８次調査報告書－』同第 1186 集　2013

Ⅲ．調査の記録

１．概要

今回報告する香椎Ａ遺跡第８調査区は、福岡市東区香椎1045-1、1045-3、1045-4、1045-5、1045-6、1049-2、1034-2、1042、1044、1046、1048に所在し、調査前の現況は標高約21～26ｍを測る山林伐採後の急斜面の山地であった。調査地点は遺跡の中央部に位置し、東側では第１、４、６、７次、北側では３次、同様に南側では第２次の各調査が実施されている。

「Ⅱ．遺跡の立地と環境」でも触れたように本調査区は、城越山から博多湾に向かって派生する香椎丘陵上に占地する。北側の谷部は香椎Ｅ遺跡が立地しており、一方の南側斜面は香椎宮が占地する。西側丘陵部には香椎Ｂ遺跡が立地している。北側の坂堤遺跡の第１、２次調査、香椎Ａ遺跡の４、６、７次調査は一般国道３号線バイパス建設に伴う調査で発掘されている。

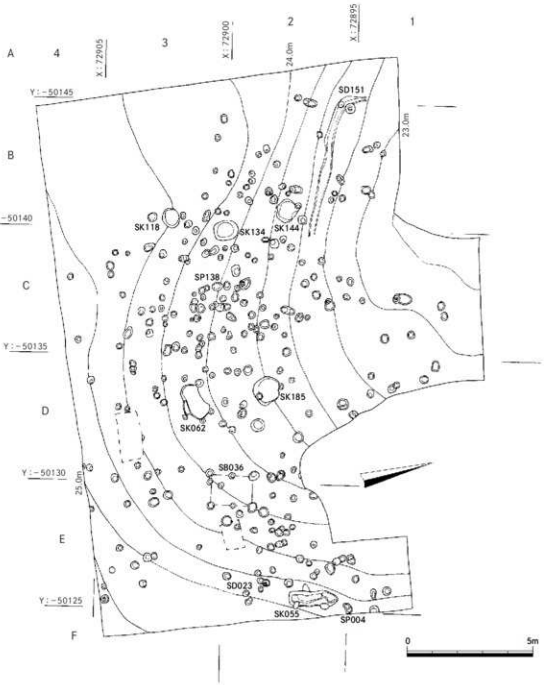
本調査区は表土および客土のほぼ直下に花崗岩風化層に起因する遺構面、もしくは包含層があり、南側が高く、北側に向かって傾斜する。１面調査区の南側の大半は削平により赤白色を呈する花崗岩の風化礫層が露出し、遺構密度は希薄であるが、緩斜面が残る北側は暗茶褐色・暗黄茶褐色を呈する包含層が遺構面となり、第８次調査では遺構密度が濃い箇所である。掘立柱建物、溝、土坑が検出されている。また、包含層を取り除くと２面であるが、２面で検出されたピットはまばらで、後で触れるが１面の掘り残しであった可能性は否定できない。２面の遺構面上には包含層が堆積しており、上述した通り暗茶褐色・暗黄褐色土の中に弥生後期の土器を含んで堆積していた。出土遺物量は、コンテナケースにして８箱である。

発掘調査は2018年12月17日に着手した。まず、発掘器材の搬入から開始し、翌日に重機による表土剥ぎ取り、翌々日にリース器材を搬入した。その後、世界測地系によるトラバース杭の設定等を実施し、25日から遺構検出を開始した。遺構掘削を開始したところ、包含層を切り込んで遺構が確認されたので１面・２面とした。１面は順次、北側から検出遺構の掘り下げや写真撮影、1/20縮尺を主体とする図化、遺物取り上げ、周辺測量等の作業を進め、遺構の掘削作業がほぼ終了した１月24日に高所作業車を使用して全体写真の撮影を行った。その後、残る図化作業や個別遺構写真撮影を終え、１月28日に２面掘削を開始した。２面は一部だけであり、北側から検出遺構の掘り下げや写真撮影、1/20縮尺を主体とする図化、遺物取り上げ、周辺測量等の作業を進め、遺構の掘削作業がほぼ終了した２月26日に全体写真の撮影を行った。その後、残る図化作業や個別遺構写真撮影を終え、翌27日から土器洗いと撤収を進め３月１日に第８次調査を完了した。

なお、調査対象面積は380.0㎡であるが、木の根等があり、実際に作業を行った面積は291.0㎡であった。調査時の遺構番号は、001から３桁の通し番号を遺構の種別に関わらず付した。（１面：001～220、２面:301～316）それらの番号には、欠番があるものの、重複はない。以下の報告にあたっても、原則的に調査時の遺構番号を用い、例言に記した遺構略号と組み合わせて記述するが、掘立柱建物を構成する柱穴については、報告の便宜上必要に応じて遺構毎にＰ１から順に番号を付した。

２．遺構と遺物

以下、遺構種別に報告を行うが、調査区での遺構位置を本文中で示す際には、１面・２面共に調査時における世界測地系による５ｍ単位の平面座標を基準とした英字（西から東にＡ～Ｆ）と数字（北から南に１～４）の組み合わせによるグリッド表記を用いる（第５、11図参照）。



第５図　調査区１面全体図（1/150）

１面

１）掘立柱建物（SB）

以下、調査区の東側で検出した掘立柱建物について報告を行う。報告する掘立柱建物だけでなく、調査区中央でもピットのまとまりがみられ（Ｃ－２．３）、掘立柱建物がある可能性も考えられるが、急斜面に立地しており掘立柱建物はないと判断した。

SB036（第５、６図）調査区１面のＤＥ－２．３で検出した、１×２間の建物で方位はＮ－14°－Ｅである。柱間は梁間 1.2 m、桁行 0.95 m を測る。柱穴はＰ１が一辺約 0.35 m の隅丸方形であるが、他は径 0.2 ～ 0.6 の円形を呈し、深さ 0.25 ～ 0.35 m を測る。また、桁の中心にある柱穴が径約 0.15 m と狭い。出土遺物は土師器の小片のみで図化できなかった。

２）溝（SD）

SD151（第５、７図）

調査区１面のＡＢＣ－１．２で検出した東西に走る溝である。幅約 0.4 m、深さ 0.12 m を測る。北西側で北寄りに曲がる。出土土器から 10 世紀前後と考えられる。

出土遺物（第７図）１から３は黒色土器で、共に底部付近が残る。１は底径約 8.4cm を測りヘラ磨きで仕上げる。２は底径約 8.3cm、３は底径約 8.8cm である。

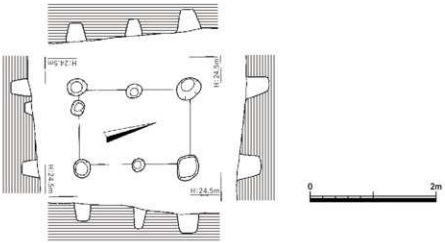
３）土坑（SK）

ここでは６基の土坑について報告する。そのうち５基（SK067・118・134・144・185）は、焼土坑である。

SK055（第５、８図）

調査区１面のＥ－２に位置する土坑で、一部を樹根により破壊されている。平面プランは不整形な隅丸長方形を呈し、長さ 2.0 m、幅 0.55 m、深さ 0.1 m を測る。東側にはテラスを設ける。底部はほぼ平坦である。覆土は暗灰褐色粘質土であり、土坑の中央南側で須恵器の蓋を２点検出した。墓の可能性も考えられたが、床が段状で最下段が 0.2 m と遺体を埋葬するには狭いため土坑とした。７世紀後半と考えられえる。

出土遺物（第８図）４、５は須恵器の坏蓋である。４はほぼ完形で径 14.8cm、高さ 2.4cm を測る。５は径約 13.8cm で、つまみ部分を欠損する。両者共に「Ｖ」のヘラ記号が刻まれるが上下向きが反対



第６図　SB036 実測図（1/60）

である。蓋だけ2個体天地が逆転した状況で検出され、身部分が一切ない状況である。

SK067（第5、9図）

調査区1面のD－3で検出した、焼土坑である。北側の一部が削平されているが、平面プランは楕円形を有し、幅は1.5 mで段を有する。覆土は暗茶褐色粘質土（炭混）である。

SK118（第5、9図）

調査区1面のB－3で検出した、焼土坑である。平面プランは円形で径0.7 m、深さ0.1 mである。覆土は暗茶褐色粘質土（炭混）である。

SK134（第5、9図）

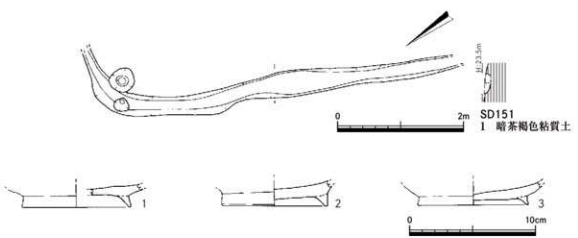
調査区1面のBC－2．3で検出した、焼土坑である。平面プランは楕円形を有し、幅は1.0 × 0.8 m、深さ0.18 mである。覆土は暗茶褐色粘質土（炭混）である。

SK144（第5、9図）

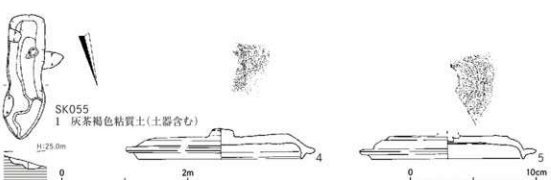
調査区1面のB－2で検出した、焼土坑である。平面プランは隅丸方形を呈する。幅は0.77 × 0.85、深さ0.2 mである。覆土は暗茶褐色粘質土（炭少量混）である。SP160に切られる。

SK185（第5、9図）

調査区1面のD－2区で検出した、焼土坑である。平面プランは不整形な円形で径は約0.9 m、深さ0.19 mである。覆土は暗茶褐色粘質土（炭混）で、SP220を切る。



第7図　SD151実測図（1/60）および出土遺物実測図（1/3）



第8図　SK055実測図（1/60）および出土遺物実測図（1/3）

4）その他の遺物（SP）

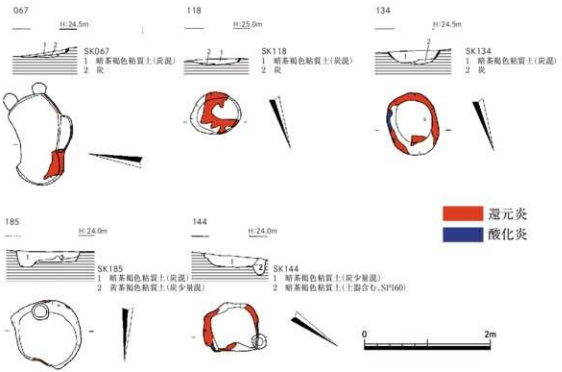
最後にピット（SP）出土遺物（第５、10図）について報告を行う。

SP004（第５、10図）

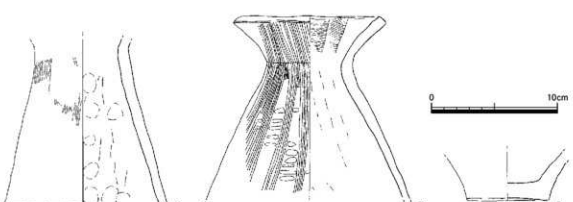
調査区のＥ－１．２で検出した。６は弥生土器の器台である。底径約12.4cmが残る。内面は指押さえ・ヘラ削り、外面はハケ目が確認できる。

SP029（第５、10図）

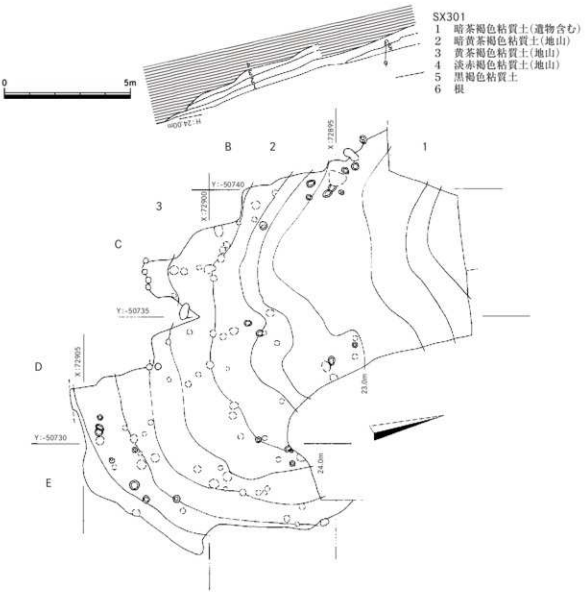
調査区のＥ－２で検出した。７は弥生土器の器台で、口径12.0cmを測る。内面頸部より上ではハケ目、頸部より下ではヘラ削り、外面はハケ目が確認できる。



第９図　SK067･118･134･144･185 実測図（１/60）



第10図　ピット出土遺物実測図（１/３）



第 11 図　調査区 2 面全体図（1 /150）

SP138（第 10 図）

調査区のＣ－３で検出した。８は弥生土器の甕である。底部付近が残り底径約 8.6cmを測る。

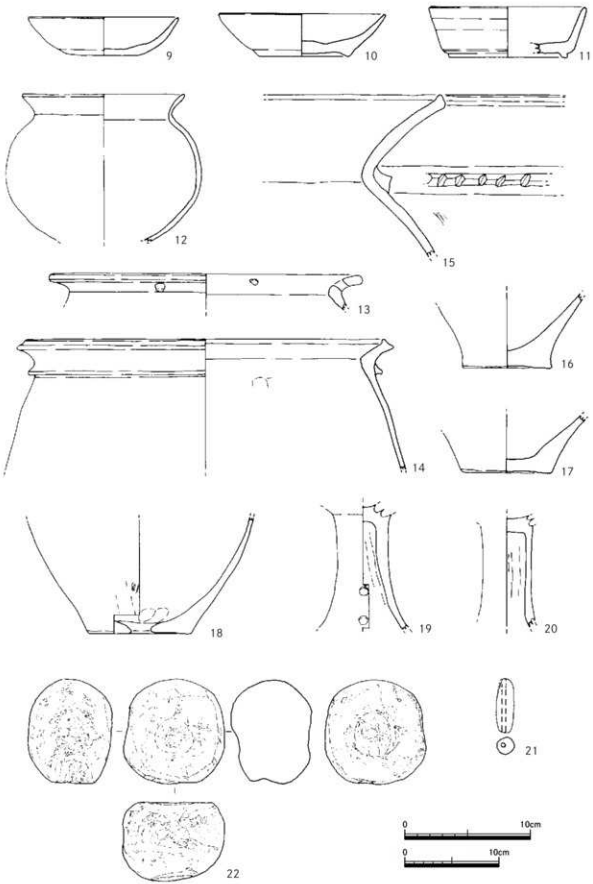
2 面

包含層（SX）

SX301（第 11 図）

調査区の中央部ＢＣＤＥ－１、2、3、4 で検出した包含層である。「Ⅲ－１. 概要」でも触れたとおり、ピットが何基か確認できるが、１面での掘り残しの可能性が高い。暗茶褐色粘質土、黒褐色粘質土から遺物が出土している。主に暗茶褐色粘質土から弥生土器が出土している。

出土遺物（第 12 図）９、10 は土師器の坏身である。９は口径 11.8cm、高さ 3.0cmを測り回転ナデで仕上げる。10 は高台があり、口径 13.1cm、底径 6.8cm、高さ 2.9cmである。11 は須恵器の坏身である。口径約 12.4cm、底径約 9.4cm、高さ 4.0cmを測り、回転ナデを施す。12 ～ 20 は弥生土器である。



第 12 図　包含層出土遺物実測図（14 は 1 / 2 、他は 1 / 3 ）

12 は壺で口径約 12.8cmを測る。器壁は風化が著しい。13 は壺であり、口径約 24.6cmを測る。口縁から頸部の間に径約 0.6mmの穿孔が確認できる。14 は甕で、口径約 39.8cmを測る。頸部には 1 条突帯が付く。内面に指おさえの痕跡が確認できる。15 は甕で口縁部は立ち上がり、頸部には刻み目のある突帯が確認できる。外面の一部にはハケ目が確認できる。16 は甕の底部付近で、底径 7.0cmを測る。調整は風化が激しく未確認である。17 は甕の底部付近で底径 7.2cmを測る。調整は外面にハケ目が確認できる。18 は甕で焼成後は底部に穿孔する。底径 8.3cmで、調整は底部付近がよく残る。外面はハケ目調整、内面は指押さえの痕跡が残る。19 は高坏で脚部には径 0.7cm円形の穿孔が 6 か所確認できる。20 は高坏の脚部である。21 は土製の錘である。長さ 4.3cm、径 1.4cm、孔の径は 0.35cm、重さ 18 g を測る。22 は玄武岩整の敲き石である。縦 10.9cm、横 10.7cm、厚さ 8.4cm、重さ 1743.74 g を測る。

3．結語

香椎 A 遺跡第 8 次調査の 1 面では主に掘立柱建物 1 棟、溝 1 条、土坑 1 基、焼土坑 5 基検出された。掘立柱建物については出土遺物が小片のため時期決定はできていない。溝については 10 世紀頃とされる黒色土器が出土した。土坑 1 基は 7 世紀後半の須恵器が出土している。

焼土坑は 5 基（SK067、118、134、144、185）検出され、遺物は検出されていないが、ほぼ同じ年代であろうと考えている。SK144 は弥生中期後半頃と考えられる甕底部の破片を検出した SP160 を切っており、弥生中期後半よりも新しい。また 5 基のうち 4 基の焼土坑は包含層（SX301）を切っている。SX301 の年代は弥生時代中期～古代（850 年頃か）の遺物を含んでおり、少なくとも 850 年より新しいと言うことができる。

（1）1 面全景（上空西から）

（2）SD151 断面（北東から）

（3）SK055 断面（北から）

（4）SK062 断面（西から）

（5）SK118 断面（北から）

（6）SK134 断面（北から）

図版２

（１）SK144 断面（北東から）

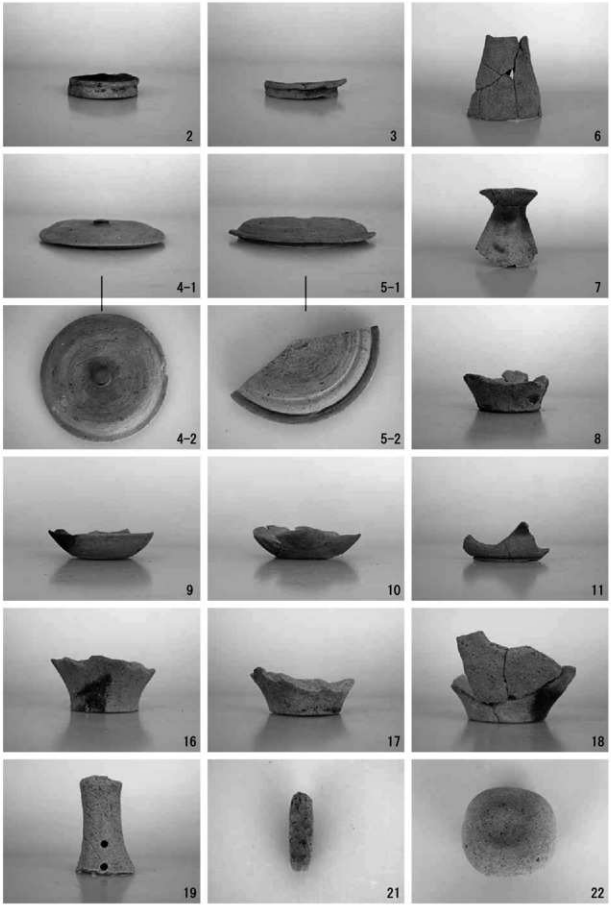
（２）SK185 断面（北から）

（３）SP029（北から）

（４）２面全景（東から）

（５）２面包含層１（東から）

（６）２面包含層２（東から）


2
3
6
4-1
5-1
7
4-2
5-2
8
9
10
11
16
17
18
19
21
22

報 告 書 抄 録

ふ り が な	かしいAいせき8 －かしいAいせきだい8じちょうさほうこく－
書　　名	香椎A遺跡5
副 書 名	―香椎A遺跡第8次調査報告―
シ リ ー ズ 名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第1408集
編 著 者 名	清金良太
編 集 機 関	福岡市教育委員会
所　在　地	〒810-8621　福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号　TEL 092 － 711 － 4667
発 行 年 月 日	2021年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
香椎A遺跡（かしいAいせき）	福岡県福岡市東区香椎（ふくおかけんふくおかし ひがしくかしい）	40131	0069	33°65′62″	130°45′29″	20181217 ～ 20190308	290.7	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
香椎A遺跡第8次	集落	弥生時代～中世	掘立柱建物、土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器	古代から中世の集落跡、炭窯を確認

要　　約	香椎A遺跡第8次調査は香椎A遺跡の中央西側に位置している。今回の調査では掘立柱建物1棟。炭窯が5基検出された。炭窯の詳しい時期は不明であるが、周囲の状況から古代から中世にかけて操業していたものと考えられる。

香椎A遺跡5

香椎A遺跡第8次調査報告

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1408集

2021年（令和3年）3月25日

発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷　松古堂印刷（株）
福岡市西区周船寺3丁目28番1